

地球と人類の救世主

弘前市立第一中学校

伊藤 快人

「みなさん、昆虫は好きですか」

私は昆虫が大好きです。そんな私に母が薦めてくれたのは、『昆虫の惑星』という本でした。タイトルと表紙のデザインにひかれて一心不乱に読みました。

地球上には膨大な数の昆虫がいます。私たちが普段生活している間にも、昆虫たちはせっせと活動し続けています。この本では、そんな昆虫たちの世界を、彼らの体の仕組みや他の生き物とのつながりや人間との関わりなどと交えて紹介しています。

さて、みなさんは環境問題と聞くと何が思いつきますか。私はプラスチックごみの問題が真っ先に思い浮かびます。近年、プラスチックごみの量を減らそうと意識が高まってきていますが、まだまだリサイクル率が低いのが現実です。その問題を解決してくれる昆虫がいます。それはミールワームです。彼らはプラスチックを餌にして食べることを初めて知りました。厳密には、彼らの腸内細菌が分解するそうです。救

世主のような彼らも水が苦手なので、海洋プラスチックを分解できないことが残念でなりません。これから研究が進んで、海洋プラスチックごみの問題を解決できる突破口が見つかることを願いつつ、私たち人間も、ごみを減らす努力を続けなければいけないと考えました。

他にも驚く能力を持った昆虫たちがいます。膿うみと死んだ組織だけを食べるウジ。あまり人に好かれない昆虫ですが、傷の治りを早めることができます。抗生物質ができてからはあまり注目されなくなりましたが、最近では複数の薬剤に耐性をもつ細菌が現れたことで、再び脚光を浴びているようです。副作用もなく、細菌の繁殖を抑える物質や、新しい組織の成長を促す物質を出すこともできる能力も持っているのです。これからの活躍にとても期待できる昆虫だと思っています。

すでに医学の分野で、六回もノーベル賞に貢献している昆虫もいます。シオウジョウバエです。こちらあまり好かれるタイプではありませんが意外なことに、彼らは人間と遺伝

子配列に共通点が多く、医学の研究に我が身を提供してくれました。今日、私たちが元気に過ごしていられるのも彼らのおかげと思うと感謝でいっぱいになります。

人間に嫌われる代表格といえばゴキブリかと思います。ゴキブリは放射能に強いし、耐久力があり、とても頑丈な体とずば抜けた運動神経の持ち主です。この能力を人命救助に生かす研究があります。日本は地震大国であり、近年、自然災害も増加しています。人間が入り込めないような場所で彼らが活躍する日がくるかもしれないと思うと、あまり嫌われないでほしいと思います。

このように、人間に嫌われながらも人間のために能力を提供してくれる昆虫たちを私は尊敬します。感謝もしています。

虫が苦手な人は多いかもしれませんが、果物やチョコレート、はちみつが苦手な人は少ないかと思います。昆虫が受粉してくれるおかげで私たちは食べることができます。人工授粉の作業効率は、昆虫には到底およびません。他の生き物の死がいやふんなども処理をしてくれる昆虫たちがいてくれる

おかげで、私は地球で暮らしていけるということを忘れてはいけません。自分たちの豊かさだけを求めて、このけなげな働き者たちのすみかを奪っていることが非常に悲しいです。

木を伐採、乱獲などで昆虫が減ることが、結果自分たちを追いついでいくということを今一度考えてほしいと思います。

私は『昆虫の惑星』を読んで、改めて昆虫の体の仕組みや能力の素晴らしさに感動しました。そして、昆虫がしれつな生存競争を繰り広げ、子孫を残すために植物と知恵比べをしながら生態系を維持していること、小さな昆虫たちの大きな働きが、人間にたくさんの恵みを与えてくれることに感謝しています。

「昆虫は好きですか」

昆虫たちを見た目が気に入らない、人間にとって不都合という理由だけで排除するのではなく、私たち人間にとって同じ地球に住む大切なパートナーということを知ってもらうためにも、この本を一人でも多くの人に読んでほしいと思います。